会の分科会に取り込むという意見なども出されており，今後の検討課題として改善を図る必要があります．

最近急速にA0カラープリンタが普及し，一部ではポスターそのものをプロの業者に依託した高度な作品が多く目立つようになりました．こうなると，ベストポスター賞の評価基準であるユニークで分かり易く印象に残り，お手本となるようなポスターであるにもかかわらず，苦労のあとが感じられず，お金持ち有利の不公平感が残るようになりました．ベストポスター賞の企画はもはやその目的を十分に成し遂げたとの認識により，講演企画委員会では今回をもってこれを発展的に解消し，次の企画につなげるよう検討を始めたところです．

（講演企画委員会）

写真2　ベストポスター賞の受賞式

会員の広場

ベストポスター賞を受賞して

このたびはベストポスター賞に選んでいただきまして，たいへん光栄に存じます．私の発表は，冬期季節風時に北海道の石狩湾で2台のレーダーを用いて行った観測の解析結果を示したもので，数か月前に完成した学位論文の内容の一部であります．このポスターは，A4サイズの台紙にプリンターで印刷したものを張り合わせるというもので，これは私がここ数年間使い続けているスタイルであり，これまでにも2回ほどノミネートされたことがありました．内容は違うもののポスターの雰囲気は過去に作成したものとあまり変わらないので，ここにきてベストポスター賞を受賞できたのは少々驚きでした．A0プリンターを用いたポスターの普及がめざましく，今回ノミネートされた他の方々のポスターは，ほとんどがA0もしくはB0プリンターを用いた美しいものばかりでしたが，そんななかで，A4台紙を張り合わせた旧来型の私のポスターが選ばれたのは，もしかしたら加工の手間が垣間見えて評価基準の中の「苦労の跡が伺えるようなポスターを表彰する」という点が効いたからなのかもしれません．A4の台紙を組み合わせたポスターは，図を印刷した後の加工の手間がかかってしまうという欠点がありますが，分解すればA4サイズのクリアーブックに収まってしまうので，持ち運ぶ上でとても便利です．国際学会出席のために長距離を移動する際，出来るだけ荷物を減らしたい場合には良い方法だと思います．

ポスターの製作に当たって，私がいつも目指していることは，少し離れた所から全体を数分間程度眺めるだけで，その内容がおおよそ把握できるようなポスターに仕上げることです．ポスターセッションは，小人数で十分な議論ができるというメリットがありますが，その一方で多くの参加者に自分の研究をアピールしてゆくことは難しいものです．そんなポスターセッションでも，出来るだけ多くの人にアピールするにはどうしたらよいかと考えた時，初めから興味をもって見に来てくれる人以外の人でも，ふと立ち止まってしまうようなぱっと見た時の見栄えの良さと，短時間で研究の流れが理解できるような構成，一言でいえば「取っ付きやすさ」が重要だろうと考えたからです．そのため，重要な図は出来るだけ大きく，そして研究結果の結びの言葉などは簡潔・明瞭にするよう心掛けてきました．しかし今回の発表では，発表に使う図を絞り切れずに図が多くなってしまい，そのため個々の図が小さくなってしまい，遠くからは見づらくなってしまった感は否めません．それでも，論理的な構造を明

瞭にするために，太線で囲ったり背景の色の塗り分けに工夫を凝らすなどして，見栄えの良さや，研究の流れの解りやすさを追求したつもりです．ちなみにタイトルの背景は，私が石狩湾で観測を行った時に寒風に耐えながら撮影した降雪雲の画像です．この研究結果が，自分で取得したデータを解析して得たものであることを，潜在的にアピールしようとした意図があります．観測屋のプライド，というよりは自己満足みたいなものではありますが…．そういえば，ポスター賞の記念品となる気象学会特製のマグカップにはいつも衛星画像が埋め込まれているようですが，今回の衛星画像は1999年２月13日の，寒気吹き出しに伴って日本海・太平洋上で筋状雲や帯状雲が発生した時のものでした．筋状雲は私の今回の研究の対象であり，いいタイミングでマグカップを頂けたものだなぁと思います．

受賞の後に，「君のポスターは，北大の気象学研究室の伝統を受け継いでいる」とおっしゃる方がおりました．北大気象学研究室では学会発表にあたって，研究内容だけでなく図の見やすさ，美しさを求める習慣があります．見やすくて印象に残る図は，研究内容をアピールする上で大きな武器になると思います．私が知らず知らずのうちに見やすい図の製作を心掛けるようになったのも，気象学研究室での鍛錬のお蔭だと思います．菊地勝弘教授（現：秋田県立大教授）や，指導教官の上田博助教授をはじめとする北大気象学研究室の皆様に感謝します．最後になりますが，本企画を含め大会の運営に関わられた皆様に感謝いたします．今後もこの企画がますます良いものになるよう願っております．

山田広幸　北海道大学大学院理学研究科
（現所属：地球観測フロンティア研究システム）